

P1-072

わが国のNICU看護師が行うFamily-Centered Care (FCC) に関する文献的考察

今井彩¹、久保仁美¹、阿久澤智恵子²、
下山京子³、金泉志保美¹、佐光恵子¹

¹群馬大学 保健学 研究科、

²埼玉医科大学、

³帝京平成大学

【目的】

NICUでは、ハイリスク新生児及び家族を対象としたケアの理念として1980年代からFamily-Centered Care (以下：FCC) の重要性が認識され、近年、日本においても、家族が主体的に子どものケアや、治療方針の決定に参加することを旨としFCCが注目されるようになってきた。そこで、NICU看護師のFCCの実践に関する研究動向を概観し、日本のNICUにおけるFCCの推進を図るための示唆を得ることを目的に文献検討を行った。

【方法】

文献検索には、医学中央雑誌Web版 (Ver.5) の検索データベースを用い、キーワードを、「family centered care or FCC or ファミリーセンタードケア」、「NICU or 新生児集中治療室」で検索を行い、2001年～2015年の間の過去15年間の日本国内の原著論文をレビューの対象とした。著者及び、使用しているFCCの概念、研究目的、研究対象、研究方法、結果等の項目を設定した分析フォームを作成し、選定した6件の論文を、NICU看護師のFCCの実践に関する内容に着目して分析した。

【結果】

レビューしたFCCに関する文献数の推移は、2008年から2015年まで散見され、2009年を除き、各年1～2件であった。選定した6件の文献のうち看護師を対象とした研究が4件、母親を対象とした研究が3件あった (重複含む)。また、6件の研究のうち、2件はInstitute for Patient-and Family-Centered Care:IPFCC (米国の患者・家族中心のケアを促進するための非営利組織) の主要概念を用いていた。また3件は、各々異なったFCCの定義を使用し、うち1件については明らかなFCCの定義の記述はなかった。研究目的では、FCCの実践の検討を目的としたものが2件、看護師のFCCの実践に関する認識や信念を明らかにするものが2件、看護師のFCCの実践内容を明らかにするものが2件、看護師のFCCの教育の成果を明らかにするものが1件、FCC実践の関連要因を明らかにするものが1件であった (重複含む)。なお、看護師の家族や子どもに対する認識は調査されていなかった。

【考察】

わが国においては、NICUにおけるFCCに関する研究は少なく、まだ黎明期にあると考えられた。先行研究は、米国で発展したFCCの概念を基に行われ、介入研究や実態調査に留まるものであった。看護師のFCC実践に関する認識や内容については施設によっても差異が生じることが示唆された。今後は、看護師の家族に対する認識調査も含め、各施設における看護実践に関する実態調査を行っていく。

P1-073

小児クリティカル領域でターミナルケアを行った看護師の体験に関する文献検討

二宮千春¹、中新美保子²

¹川崎医療福祉大学大学院 医療福祉学研究所 保健看護学専攻、

²川崎医療福祉大学 医療福祉学部 保健看護学科

【目的】

小児の死亡原因で不慮の事故は毎年高い順位を示している。突然に生命の危機にさらされた我が子を前にした親の動揺は計り知れず家族看護の役割も大きい。先行研究では、小児の死に遭遇することは救急看護師にとって惨事ストレスになることが明らかになっている。しかし小児救急でのターミナルケアに関する文献は見当たらず、看護師の体験については明らかでない。そこで本研究では、小児救急と近い小児クリティカル領域の看護師がどのようなターミナルケアの体験をしているのかについて文献より明らかにすることを目的とする。

【方法】

医中誌Web版Version5を用いて「小児」「ターミナル/死亡」「クリティカルケア/小児ICU/集中治療室」「看護」のキーワードを用いて原著論文に限定し検索を行った。またPubmedにて「Child」「Critical Care Nursing」「Terminal care」「Nurse」で検索を行った。該当した文献よりターミナルケアを行った看護師の体験について文脈単位で抽出し意味内容を損なわないようコード化しサブカテゴリ、カテゴリへと整理した。

【結果】

検索の結果、医中誌より27件、Pubmedより18件の文献が該当し合計45件であった。その中から小児のクリティカル領域の看護師の体験について記述してある17件を対象文献とした。看護師の所属はNICU5件、PICU5件、ICU (救急ICUを含む) 5件、CCU1件、記載なし1件であった。分析の結果、20のサブカテゴリと8つのカテゴリに整理された。小児クリティカルケア領域でターミナルケアを行った看護師の体験のカテゴリは「緊張感の中での看護」「限られた時間の中での親子のつながりを支えるケア」「看取りのための環境調整」「医師と家族を取り持つ」「チームで統一した看護の実践」「看護師としての無力感」「自己の能力への戸惑いと不安」「家族対応の難しさ」であった。

【考察】

小児クリティカル領域でのターミナルケアについての文献数は少なかった。実際に子どものターミナルケアの症例数は少なく、看護師は臨床で経験的に学ぶ機会の不十分さを感じており教育体制の検討が必要と考えられる。また看護師は、看取りの際やその後に無力感を感じる事が多く、看護師の精神面への支援を検討することの必要性が示唆された。今後、惨事ストレスを被る可能性が高い小児救急の領域において、看護師のターミナルケアの体験を明らかにし、その後の支援について検討していくことが課題といえる。